

令和4年度 第2回磐田市行政経営審議会 議事録

日時 令和5年2月6日（月） 18時30分から20時30分まで

出席者 委員 10名

秋元富敏 委員、浅野真人 委員、井上佳子 委員、鈴木敦之 委員、
砂川利広 委員、竹内育代 委員、寺澤達也 委員、堀川知廣 委員、
森谷浩行 委員、山越弘晃 委員

（欠席4名 岡本一夫 委員、高柳裕久 委員、永井新次 委員、
村上勇夫 委員）

事務局（企画部長、こども部長、経済産業部長、政策推進課長、
政策推進課グループ長、政策推進課担当3名）

進行：政策推進課長

1 開 会

2 定足数の報告（委員総数 14名中 10名の出席により会議成立）

3 会長あいさつ

4 議事

- ・磐田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の令和3年度取組結果及び
地方創生関連交付金の効果検証結果について
- ・意見交換「デジタルの力を活用したまちづくりについて」

■磐田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の令和3年度取組結果について

| | |
|-----|---|
| 委員 | <p>この「みんなが活躍できるまちづくり」という基本目標の項目について、地元の会社さんの支援を手厚くやられていると感じた。一方で、中小企業の販路開拓や人材確保の支援が、まだ浸透してないところもあるのではないかと感じている。企業に対する周知が、まだまだ改善できるところではないかと感じた。</p> |
| 事務局 | <p>金融機関さんにも、ぜひそういった部分で御協力いただけたら大変ありがたい。中小企業さんに、がんばる企業応援団や様々な媒体も使いながら、商工会議所さんや商工会さんにも御協力いただいているが、良いアナウンスの仕方のお知恵あれば、ぜひいただけたらと思う。</p> |
| 委員 | <p>全体的にはKPIの指標について未達成の部分があるという結果だが、コロナ禍を考えれば、かなり頑張っていたのではないかと受け止めている。15ページ、学校に対する満足度ということで90%に対して88.7%ということで、若干下回っているが、着実に、子供たちの学校に対する思いや、先生の子供に達する接し方が、かなり落ちついてよくなっていて、良い環境で学習が進んでいると感じている。</p> <p>特に、GIGAスクール構想の中で、1人1台端末というハード的な面は当然整備されてきているが、ソフト的なところも、デジタル教科書の導入などを一部進めていただいていたりと、英語教育を先進的に進めていただいている、我々が中学3年の頃に学んでいるようなことを、小学校5・6年がリスニングではもう取り組んでいるということで、びっくりするような取組もされている。こちらの数値には出てこないところでも評価できる点が多々あるのではないかなという印象を持っている。</p> |
| 委員 | <p>15ページの今後の課題のところ、学校施設の多くは建設後30年以上経っているということで老朽化も拳がっているが、健やかな成長という中で、今、温暖化やコロナということもあり、全国的に体育館等の冷暖房設備の設置の問題があります。設置している市町村もあると思うが、磐田市として、今後、体育館の環境整備をどのように考えているのか。</p> |
| 事務局 | <p>今のところ、教育委員会では具体的な話はしていない。エアコンの設置は、普通教室は全て完了した。今、特別教室を順次設置している段階である。体育館というと、莫大なお金も掛かるので、今のところそこまでの計画は立ててない。</p> |
| 委員 | <p>様々な施策の中で、新型コロナということで想定外が多々あったという状況で、KPIの数字だけでは測ることができないプロセスであったり、数値は低いけど実は状況が打開できたとか、数字以上にこれは手応えがあったとか、資料からは読み取れないところで頑張っているところがあれば、ぜひそういった項目を委員の皆さんに披露していただきたい。</p> <p>いろいろと新規の取組も複数行っている中で、その手応えも言っていただけると、この説明文以上に、今後の見通し等も含めて、委員の皆さんが理解できると思う。</p> |
| 事務局 | <p>全体を通して、このコロナの中で頑張ったと思えることは、やはり「子ども」と「産業」というところは、本当に気を遣った。働くところの確保、それから、安心して子どもを預けられるという、そういったところについては手も掛けだし、お金も掛けてきたというところはある。おかげさまで、大きなトラブルもなく過ごすことができ、本当にありがたいという思いを持っている。それは、保育関係者や幼稚園の先生、学校の先生の並々ならぬ努力のおかげだと思っている。産業についても、企業の皆さんが本当によく頑張ってくれたと思っている。操業もできない、従業員も働くことができない</p> |

| | |
|------------|---|
| | <p>ような大変な状況になりつつも、何とか踏ん張って、雇用を確保してくれたのはありがたいと思っている。これも、行政だけの力ではなく、市民の皆様や企業の皆様が頑張ってくれた成果だと思っている。</p> |
| <p>委員</p> | <p>12ページの、「若い世代が家族を増やしたくなるまちづくり」というところで、子どもの情報を一元的にシステム管理する子どもカルテシステムを構築したということで、本当にすごく良い取組だと思っている。そのような中で、子どもの情報が構築されると、災害時とかいろいろなときに安心安全につながるのではないかと考えているが、子どもカルテシステムの今後の活用について関心があるというところと、今後の課題のところ、「保育園のさらなる定員の拡大とともに、保育士の確保に取り組む必要がある」と明記をされているが、国のほうでは令和4年度を目途に、少しずつ保育園が空いてくるのではないかとというようなことも、話をされている。この文章を読むと、多分、人口が増えているところとか、減っているところとかメリハリをつけながら整備をされていくのではないかなと思っているが、その方向性が分かれば、教えていただきたい。</p> <p>最後に感想ですが、本当にこの目標値を立てたときは、コロナなど先行きが見えない中での目標値だったと思う。実際に事業を運営させていただいて、困ったことや今までに経験したことがないことがあったときに、本当に一つずつ丁寧に対応してくださり、そこが指標に表れていない、磐田市さんの強さなのかなと感じているので、その辺が市民の方にも伝われば良いと思っている。</p> |
| <p>事務局</p> | <p>まず、「子どもカルテ」と言っても、初めてお聞きになる方もいらっしゃると思うので、どんなものか説明させていただきたい。市にはいろいろな情報がある。児童虐待などの情報もある中で、母子保健は、1歳6か月児健診と3歳児健診を必ず受けていただいて、そういったデータの蓄積もある。この子どもカルテには1万4,000件の母子保健のデータを中心に、デジタル化されている。例えば、「顔あざ」と検索すると、そのリストが全部出てきて、家族構成からいろいろな細かい情報が、極秘事項ですが見ることができる。それによって、来場された方や相談者の検索をスピーディーに行うことで、家庭の状況を把握した中で相談に乗れるというメリットがある。まずは、データの分析と検索ができる仕組みづくりを行った。今後については、いろいろな事象が発生する家庭には、何となく共通点が出てくる。そうすると、いろいろなところでの相談、健診時の反応、そういったものを記録したことを分析し、予防策を打つことができるということを将来の目標にしている。ですので、この子どもカルテシステムを、関係機関と当然パスワード等いろいろなロックをかけながら安全性を担保しながら共有することで、例えば、子育て支援センターに行ったときや母子保健で保健師が接したときに、信号を早めにキャッチして、早めにアプローチすることで、大きな事件事故を防止したい、そういう思いで進めている。</p> <p>そして2点目の保育園の関係ですが、本市の状況として、出生数自体はそこそこあるが、児童数自体は減っている。そんな中で、待機児童と言われる、保育園に入園できないお子様がどれくらいいるかという、実は年度の途中に入りたいという方がたくさんいて、この令和3年度の数字でいくと、373人の方が申請を出されているが、お待ちいただいたり、調整をさせていただいているという現状にある。先ほど、委員さんから令和4年度あたりには何となく子どもの数が減少するというふう話もあったが、本市の場合は、令和7年度前後から、若干保育園等の入園の子どもさんが減少傾向になるのではないかと分析している。国のほうも、令和7年度がピークということで報道されているので、国の流れと同じような感じではないかと思っている。ですので、保育園の定員を、ある程度増やしな</p> |

| | |
|-----|---|
| | <p>がら受入れをしていくというようにメッセージを出させていただいたのは、本市においては待機児童がたくさんいらっしゃるので、できるだけその希望をかなえてあげられるように、枠を増やしなが ら対応していきたいと考えている。</p> |
| 委員 | <p>指標の中で「磐田市が住みやすいと答える市民、92.4%」、「これからも磐田市で子育てをした いと思う市民、98%」と、非常に良い数字が出ていて、市民の皆さんはそう感じているのだと思 う。ただ、一方、移住定住を見ると、静岡県全体は非常に首都圏でも人気のある、希望するところにな っているが、西部地域は首都圏から少し遠いということで、なかなか数字が伸びていない。そうい った中で、やはり、磐田のブランド力を高めて、ターゲットに対してしっかりPRしていく、その情 報発信の仕方を少し分析していただいて、うまく発信できるようにしていただくことを、県と一緒に なって、中京のほうでもセミナーを開いたりしたいと思うのでお願いしたい。</p> <p>あと、17ページにある「学校卒業後磐田市に就職を希望する高校生の割合」が32.9%、これが高 いのか低いのか分からないが、やはり高校生に限らず小中学生も含めて、磐田市の企業のすばらしさ やどんな企業があって、どんな活躍、貢献をしているとか、そういった情報をできるだけ発信してい くと良いと思う。学生さんも含めてそういう情報が得られないという話をよく聞くので、ここに書か れている取組を少し広げて展開していただければ大変ありがたいし、特に、女性が大学に行っ てからまた戻ってくるときには、ファッションや化粧品、出版といった業種も県内にないわけではな いので、そういったところもあるということもPRしながら、分析をして、情報発信して伝えられ たら非常に良いと思う。</p> |
| 事務局 | <p>まさに磐田の課題を委員が思い切り言っていただいたということで、これが今、大変悩みの種にな っている。特に移住定住は、この西部地域はなかなか進まないところがあり、それが今課題 で、どのようにやっていこうかということが手探り状態で、県の皆様にも御協力いただいているの で、今後もよろしくお願いしたい。</p> <p>また、企業情報もそのとおりで、ある市の高校生に自分の周りの企業を三つ書いてくださいと言っ たところ、ほとんどの子を書けず、書けても二つまでだったそうである。多分、磐田もそうなのだろ うと感じているので、最近、市長自らが高校に行ってアピールしたりということもやり始めている。 また、中学3年生への市長のメッセージビデオを今つくっていて、そこには企業の紹介も入れ込んだ 形を考えているので、そういう中で一生懸命努力していきたいと思う。</p> |
| 委員 | <p>今のことに関連して、このアンケートは、男女別の数値を市ではつかんでいるのか。</p> |
| 事務局 | <p>高校3年生で男女別の数値をつかんでいる。</p> |
| 委員 | <p>女性が勤めるところが近くにあって、それで地元に残るということが、将来にわたって人口の増減 に大きく影響するのではないかとされていることもあるので、そういう分析があれば、市の政策に 生かしてもらえればと思う。</p> |
| 委員 | <p>4ページのがんばる企業応援団の対象企業は、どのような企業かお聞かせいただきたい。</p> <p>また、空き家バンクの運用開始ということで、新規登録や契約成立の件数が余りにも少ないので、 私も空き家バンクの件で問合せしたときに、不動産屋さんに丸投げだったので、市のほうとしてはど んな状況になっているのかということと、磐田市内にある空き家がどういう状況で、何件ぐらいある という数値を、出すとか出す最中とお聞きしていたので、進行状況等をお聞かせいただければと思 う。</p> |

| | |
|-----|--|
| | <p>もう1点、県外の福祉関係の方が、こちらで事業をやりたいと言ってお問合せをさせていただいて、先日iプラザに行かせてもらったが、なかなか空き家もなく、土地からという形も磐田市は近隣の市町と比べると、条件があり過ぎてそういった事業的なことがなかなかできないということ等も言われてしまったので、何かその辺が、今後もう少しゆるくというか、県外から来る人たちに対しても、誘致になるかどうか分からないが、そういった状況が今後どうなるのかということもお聞かせいただきたいと思います。</p> |
| 事務局 | <p>がんばる企業については、対象となっている会社さんが今190社ほどあり、職員が2人ペアで2ないし3社受持ちをもって、年に2回企業訪問をしながら市からの情報を発信させてもらい、会社さんの悩みや課題を聞いて、それを関係のセクションにつないでいる。対象の会社さんは、基本的に市内の中小企業さんを対象とさせていただいていて、我々が定期的な訪問をさせていただいて構いませんかとお話をさせていただいて、ぜひ来てくださいといったところにお伺いしている。なかには会社さんのほうも、情報は欲しいけど面談まではといった会社さんもあるが、もしそういった会社さんがあれば、ぜひまた情報をまた教えていただければありがたいと思う。</p> |
| 事務局 | <p>次に、空き家の関係です。基本的に市が本当に把握しなければならない危険空き家の数は確実に押さえている。あとは、空き家になっても、貸す意思があるのかないのかによっても変わるので、なかなか難しいというのが現状です。持ち主が貸して良いというものについては不動産関係と提携を結んでいるので、それで公開させていただく形をとっている。</p> <p>それから、県内とか市外から来る方は、まさにおっしゃる通りで、実は今日記者発表したばかりだが、来年度から少し上乘せして補助をしようということで、ある条件を満たしたら最大150万円。空き家を購入してリフォームし、若者39歳以下で中学生以下の子供がいると最大150万円。今までは100万円で、もっと積極的に攻めてというようなことを今年の4月から始めようと思っている。</p> |
| 委員 | <p>去年かその前の年に袋井とか掛川とか森町のほうに行かせてもらったときに、他の市町は空き家の件数を把握している。磐田市だけが把握していない状況だったので、実際に空き家になっていてもそれが1カウントにならなければ、何もならないし、結局、その空き家に住めばこれだけ出しますよって言うても、空き家の情報がない限りは、なかなかそこに手を出すことはできない。もう少しその情報の共有・開示をしていただけたら、定住移住にもつながっていくと思うので、その取組を強化していただけたほうが良いと思う。</p> |
| 事務局 | <p>空き家の数は大体つかんでいます。ただ貸してくれるのか、貸してくれないのかという踏み込んだところまでは行ってないということで、今後も何かできる方法を考えていきたいと思う。</p> |
| 委員 | <p>空き家に関して言うと、権利者が1人だったらやりやすいが、相続の問題もあるので、単純に建物だけの問題ではなく、人の問題だというのが空き家の本質かなと個人的には思っている。</p> <p>あと、8ページの地域ブランド調査のところと、とあるランキング調査の審査員をやった際に、磐田市を何で押せば良いのかという話になったときに、なかなかなかったということがあった。磐田市でこれから必要だと思っているのは、スポーツのまちならスポーツのまちで良いと思うが、徹底的にやってほしい。</p> <p>あと、高校生まちづくり研究所で、私も今年、政策推進課からお声掛けいただいて、11月の発表会に参加させてもらって、それを商工会議所の委員会に持ち帰って、皆さんで共有したところ、一緒にやりたいという方が何名かいらっちゃって、どうしたら良いのという話になった。誰に言ったら良</p> |

| | |
|-----|--|
| | <p>いのだろうという感じで今に至っている。高校生の人たちも、自分たちのアイデアが、産業界の人と一緒にやることで実現した、もしくは、自分たちが関わらないにしても、何らかの形でそれが動き出したという経験が、将来磐田市に戻ってくるきっかけになるのではないかと意見が委員会の中で出てきた。例えば、今年の磐田南高校の防災の関係であれば、防災関係の企業の人と一緒にやってみたい。磐田北高校のグループは、ごみ拾い関係を行っている人たちが一緒に組んでやったら面白いのではということで、私のところに来ている。そこから先の地元の人たちと彼らをマッチングできれば、やったことが経験となって将来磐田市に戻ってくるきっかけになるのではないかと思う。</p> |
| 委員 | <p>農業のことでいくつか教えていただきたい。国でみどりの食料戦略といって2030年までに、有機農業の面積を25%にするという目標を立てているが、磐田市としてその辺をどのように応援していくのか伺いたい。</p> <p>それから、農業をやる人が高齢化でどんどん抜けていく中で、担い手と言われる人たちの経営面積が多くなっていくが、それに伴って、付随する仕事である道路わきの草刈りや排水堀の堀ざらいとかが増えていく中で、お金にならない仕事がこの先経営を圧迫するのではないかという不安がある。そのようなところをどのように解決していくのか。</p> <p>それから、お茶も、大きくやる農家さんが残っていく中で、お茶で食べていけるのかという厳しい状況だが、お茶から転換するといったときに、本当にできるのかなというようなことを心配している。</p> |
| 事務局 | <p>最初の緑の食料戦略については、先日、第1回目のセミナーを開催させていただいた。60名ぐらい市内で農業をされている方や関係の団体さんにお越しいただき、お話を聞いていただいた。今後も農業者さんの機運を高めていくような取組もしていきたいと思うし、今、エシカル消費的なことも言われている中で、消費者さん側から見たところのそういう高まりも合わせながら、方向的には、市の中できれいにゾーニングできたりすると良いが、有機栽培を国の示すようなところに向かって本市としても進めていきたい。</p> <p>あと、高齢化のところ、市内の中でも部農会さんがしっかり機能していたり、いろいろなところがあるという認識を持っている。我々も地域の皆さんで課題の一つだと認識していただけたところに関しては、国の環境保全型の多面的制度の活用なども御紹介させてもらったり、一緒になって取り組んでいるが、自治会さんの中でも難しいところも正直あって、今明確にこの方向でと言い切れないところがある。それぞれの地域の課題を聞いて、どういった解決の方法が望ましいか、一緒になって考えていきたい。</p> <p>あと、お茶の方向性についてですが、皆さん御存じのとおりお茶の価格の低迷があり、消費的に落ちてきていて、特に売り葉の農家さんがやめられていくところがあって、磐田原のほうで35ぐらい製茶工場さんがあるが、今度は受けきれなくなってしまう。そういった課題もあり、農協さんも大きい課題だというふうに認識をしている中で、農協さんとも膝を交えながら、事業承継的なもの、例えば農林環境専門職大学で今学ばれていて、磐田の地に住んで何かうまく承継ができないだろうかとか、転換策も、磐田原に合うもの、うまく違う作物で何かできないだろうかという部分を協議し始めている。</p> |
| 委員 | <p>18ページの防災備蓄ステーションについて、備蓄倉庫の中にいろいろなものが入っているが、例えば食べ物賞味期限が切れてしまったり、古くなってしまうので、備蓄倉庫のものを順次入れ替え</p> |

| | |
|--|---|
| | <p>ていると思う。入れ替えて不要になったものをいろいろなところに提供し、物の循環を図るといようなことで今研究を始めているので、またそういう研究も生かしていただければと思う。</p> |
|--|---|

■地方創生関連交付金の効果検証結果について

| | |
|-----|---|
| 委員 | <p>まず1点目は、6ページのNo.40とNo.41、IT導入セミナー開催事業とデジタル化支援補助事業という内容だが、具体的にどのような内容のセミナーで、何人ぐらい参加されていて、結果どのような事業、業態の会社から申請があったのかを教えてください。</p> <p>2点目は、4ページNo.21と、関連があります7ページのNo.47、AIとRPA導入推進事業ということで、磐田市においてどのような業務に導入されたのか。</p> <p>3点目は、2ページのNo.13、市議会、議員さんへタブレットの端末を支給する事業ということで、オンライン会議に活用ということだが、実際の実施状況や利用度、効果を教えてください。本日の議題が、デジタル関係ということで、直接関係はしないかもしれないが、デジタル絡みということで御質問させていただきたい。</p> |
| 事務局 | <p>まず、IT導入セミナーは令和3年12月16日に開催し、市内の企業さん17社に参加をいただいた。県のふじのくにロボット技術アドバイザーの長谷川さんにお越しいただいて、御講演をいただき、磐田市デジタル版おせっかい事業の紹介もさせていただいた。</p> <p>デジタル化補助事業は、令和3年度のときに、金融機関さんから御紹介いただいたりした中で事業を展開して、数日で予算満額までいくような状況になった。使っていただいた業種の方は製造業、建設業のほかいろいろな業種に使っていただき、社内の勤怠管理的な部分やバックオフィスの部分、販売的な部分ではECサイトといったものに活用いただいた。今年度についても、このデジタル化の補助金で3,000万円ほど補正予算を計上し、活用していただいている。</p> |
| 事務局 | <p>21番の会議録作成支援システムですが、皆さんがいろいろなことをしゃべると自動的に文字に起こしてくれて会議録ができる。それによって、職員が議事録を起こす手間が省ける。</p> <p>ここには記載していないが、保育園の入園調整の書類を読み込んで、AIで入園調整を行いました。約80%が、職員が行ったものとほぼ同じ結果になった。それによって、早期にあなたはAの保育園は入れないが、Bの保育園なら入れますよという御案内を保護者へ差し上げることで、保護者の方が、それではBにしますということを決めると時間が、2週間から3週間生まれた。できるだけ早く状況をお伝えすることで選択肢の幅を広げて、より多くの方が保育園に入れたという間接的な効果も生まれている。</p> |
| 事務局 | <p>次に、市議会のタブレットの関係です。当局と市議会議員がオンラインで結んで会議を開くとうとこまでは行っていない。ただし、全て紙ベースだったものが、データで資料が送られて、タブレットを見ながら会議を行うことは許されるようになり、私たちも、タブレットを持ち込んで答弁をさせていただくというようなどころまで行っている。</p> |
| 委員 | <p>オンラインの件について、コロナ禍なので企業も当然、テレワークやオンライン会議が進んでいると思う。コロナ禍だけでなく、今後も、平時であっても何かあるかもしれないので、例えば年に1～2回、オンライン会議をやってみるとか、そういうことを含めて活用していただくと、さらに良いと思う。</p> |

| | |
|-----|---|
| 事務局 | <p>今、オンラインというのは当たり前のことになってきて、実際やってみたらそんなに悪くないと職員も思い始めている。企業の皆様との打合せ等をオンラインでやったりとか、いろいろ提案を受ける際にも東京の企業さんとオンライン会議をやったりということがあり、今後そういう流れに必ずなってくると思っている。</p> |
|-----|---|

■意見交換「デジタルの力を活用したまちづくりについて」

| | |
|----|--|
| 委員 | <p>国がデジタル田園都市国家構想総合戦略を策定し、地方の取組方針や手引書をつくっているので、県のほうも検討を重ねて来年度作成するという形で、基本的にはこの4つの視点に肉づけをしながら、それぞれの地域の特徴を出せるようなものをつくっていくというような形になろうかと思う。</p> |
| 委員 | <p>来年度、自治会の役員をやることになり問題がいろいろあった。まず会長を誰がやるのかということから始まり、いろんな役員・委員を決めていくのだが、その議論の中で、コロナを理由に地域の運動会がなくなってしまい、それを復活させるかどうかということが、熱く語られた。スポーツのまち磐田と言っておきながら地域の運動会をやらないうってどうなのだろうと思ったが、それを言ったところ年配の方々に、そんなのはやりたい人がやれば良いんだというふうに言われてしまった。それは、デジタルの力で解決できる、eスポーツでやれば良いのではと思っている。中学生の子どもに、地域の運動会ができなくなったけど、もしeスポーツでやることになったか参加するか質問したところ、絶対にやりたいと言って、これがeスポーツの力かなと思う。</p> <p>また、大学の学生グループがeスポーツを結構考えていて、俺たちがeスポーツを広めていくんだ、磐田をスポーツのまちにしてやるんだという熱い気持ちを持っていて、それを聞いたある産業界の社長さんが、学生さんたちに金がない、パソコンが買えないなら俺が買ってやる、うちの事業の一つにしてやると、何なら補助金引っ張ってくるみたいな感じで言ってくれた。これが、eスポーツを機に、地域と産業と学生たちがつながって地域の魅力向上につながる一例ではないかと思う。</p> |
| 委員 | <p>今後の必要な施策の方向ということで、地方に仕事をつくるというところで、今、磐田市さんが行っているマッチング支援、スタートアップの技術を磐田市内の企業に紹介してDXを図るという、それも良いことで、市内事業者のDXの推進という側面的な支援というところが、取組例として挙がっているが、この前の磐田市さんの講演を聞く中で、やはり次の大きな目標というのが、次世代の第1次農業、第1産業の育成ということをおっしゃられた。既にスマートアグリカルチャーでパブリカを工業的に生産している。今度はエビの養殖を陸上でやるような形で、これもある意味IT化、DXを活用した生産だと思う。そういった事例がいくつかある。マッチングの支援や市内法人のDX支援、そういう側面的な支援というのも重要だが、地方に仕事をつくるという、ダイレクトに雇用を創出するというのであれば、次世代の第1次産業の誘致などにも力を入れてやられても良いのではないかと感じた。</p> |
| 委員 | <p>まず、このデジタル田園都市国家構想に対するということですが、今、磐田市さんはホームページで当然発信されていて、私も毎日のように見させてもらっている。非常に多岐にわたって細かなところまで発信されていると思う。いろいろなカテゴリーにきれいに分けていて、ここに書かれているようなことは、ほとんど施策でうたわれていて、ホームページにも内容が入っているが、これを見つけるのに大変苦労する。項目立てがあまりにも事務的な構成ではないかなと思う。磐田市が持っている</p> |

力、財産というのはかなりいろいろなものがあると思っている。今まで行ってきた施策とか、そういうものだけでも十分生かせるし、それを見せるだけでも十分発信はできると思う。そういう目で、ネット上で、まちの魅力というのはどんなところかなということ、ほかの市町の事例などもネットで少し検索させていただいた。その中で1番最初にヒットしてきた上のほうに、「未来ワークふくしま」というポータルサイトがあり、福島が復興に当たっている中で、いろんな市町が協力して、そのポータルサイトをつくっている。「知る」とか、「働く」、「起業する」、「住む」、「支援制度」、「ツアー・イベント」などの内容について挙げられているが、いろんな人の顔写真があったり、生の声があったり、空き家の物件情報があったりと、そういう情報が分かりやすく、大きな文字で書かれている。そのほうが見る人にとって分かりやすいし、問合せにもつながっていくのではないかと感じた。もう一度いろいろな市町のホームページとか、情報サイトを見られて再構成すること一つの手であるし、先進的な市町も当然あると思うので、そういう市町を視察するとか、たくさんの方では当然いけないかもしれないが、リーダー的な役割の人に行ってもらっていろんなことを見ていただくと良いと思う。また、反対に、先進地域ではなく過疎地域ほど進んでいることもある。例えば、昨年度、愛知県奥三河の豊根村さんが三遠南信教育サミットで発表されたが、豊根村さんはかなり過疎が進んでおり、人口千人、小中学生の児童生徒46人、当然先生もそれほど割り当てられない。そういう中で教育がなされているが、子どもたちに十分な教育をとということで愛知県内の大学さんと協力して、大学の先生に、高校生を対象にオンラインで授業をしてもらうとか、大学生がアルバイトで子供たちとオンラインでつないで、小学生の勉強の面倒を見るとか、過疎で困っているからこそ、我々より進んだオンライン授業とかもされている。そういう事例を聞かせていただき、いろんなところにヒントがあるので、そういうことを集めた上で、磐田市の中の今持っている財産をどういう形で生かしたら良いかをもう一度考えたほうが良いと思う。足りないところはそこを補足していけば良いと思うが、今あるものでも十分、洗い替えるだけで使えるものはたくさんあるような気がしているので、御検討いただければと思う。

委員

子どもが年末にコロナになって、学校に連絡をする中で、学校から端末が運ばれてきて、遠隔授業ではないが、こういったカリキュラムを体調に異変がなく、無理がない範囲でやってくださいといった形で、授業を受けることができた。加えて、ちょうどお楽しみ会があり、参加できないのであれば、ビデオで自分の得意なものを撮って、それをみんなで共有するという形が実現できた。これはまさに教育のDXで、こういういろんな技術の革新によって実現した。子供たちの思い出にも残って、ほかの参加できない子は、その画面で見るといったことが実現できて、便利だなということとどんどん進化をしていくということ、体感することができた。

あと、会社のほうで、自分たちに当てはめてみると、今までは、経理課は、会計であったり節税であったりといったところで、利益を上げるために、頭の良い人が重宝された時代が、これからは、ICTリテラシーが高くて、今まで人力でやっていたものを簡単に自分でプログラムを組みながらといった形のほうが、これからは、経営に必要ということで重宝されるようにシフトしている。そういった中で、デジタル人材の育成というのが非常に企業でも難しい。何か得意な人にやらしとけば良いみたいな風潮があるようでは全く駄目で、市役所さんにおいては、もちろん市の中を変える、あとは市民の方のリテラシーを上げることは、非常に難しい。スマートフォンなどは良い例で、便利だから皆さん使うが、セキュリティーのことを一歩間違えるとフィッシングにあたりする。そうするとやはり

| | |
|-----------|--|
| | <p>行政の在り方とすると、職員のリテラシーも上げながら市民へ便利な反面こういう危険があるというセキュリティについても啓蒙をしていただきながら、DX推進本部を立ち上げたということで、職員全員がリテラシーを高めるといったことを市民に見せることが、市民の皆さんの関心を得て、何か変わってきているなというふうになると思うので、次世代を担う人材の育成として、職員の研修みたいなところも、回数を増やすとかやり方を変えるといったところは、市民の皆さんに見える化をされると良いと思う。</p> |
| <p>委員</p> | <p>まず、「この人の流れをつくる」ということは、やはりスポーツのまちづくり、磐田にはサッカーもラグビーも卓球もサイクリングもある、様々なものがある。eスポーツも市の中でも行って、去年、産業振興フェアでもやられた実績があるので、そういったもので、ブルーレヴズもジュピロも女子サッカーも含めて、新たな市民参加型のスポーツイベントをしっかりと打って、スポーツとしての磐田ブランドを高めていってほしい。</p> <p>それに付随して、歴史文化では、「どうする家康」が始まりましたので、新聞にも載ったように、中泉御殿跡や酒井の太鼓、一言坂の古戦場跡など、いろいろあると聞いているし、そういったものをどういうストーリー性を持ってPRをしていくのか、周遊をもって、デジタルスタンプラリーなどもやられると思うが、情報発信して、人を集客して、その流れを1年で終わらせず、継続的に広げていっていただきたい。そういう面で、今年、県が東アジア文化都市ということで、首都になったので、今年1年はそういったものを全県で、各市町の協力も得て、国内外に向けて情報発信がしっかりできるスタンスをとっているの、SNSも活用してターゲットを絞った中で、プッシュ型でどんどん来てもらおうといったものを含めてやっていただきたい。</p> <p>あとは、防災DXの推進ですが、今年度、台風15号の被害を受けたので、やはり迅速な情報収集ということが課題になっている。県のほうも、防災情報共有システム（FUJISAN）の改修やSNSと連携した被害情報を電子化してすぐ地図上に分かるような形、市でいうと自治会の情報をいかにすぐ取り入れられるかという、防災DXについても、取組を進めていただきたいと思う。</p> <p>また、排水機場などの豪雨に備えた遠隔システムは、流域治水というような考え方になっているので、広域的に県も一緒になって取り組んでいきたいと思う。</p> |
| <p>委員</p> | <p>「人の流れをつくる」ということでデジタルを活用したイベント開催というのが書かれているが、今、個人的に、イベントやマルシェをさせていただいている。そこに小さい子どもを抱えながら出店してくださるお母さん方も結構多かったです。出店というと家族総出になったりするので、これがデジタル化ということでインターネットを使って、何か自分の発表の場というのが、今後できていけば、また違っていくと思う。市が中心になって行うイベントは、どちらかという個人的に運営するというのがほとんどだと思うが、こういったママさんを応援するような形をとれたら良いと思った。</p> <p>あと、子育てに関して、不登校やひきこもりの支援場所があるといっても、なかなかそこに出向いて行くことが少ない。お母さんが立ち上がればその場に出向いて行くことができるが、家庭の中でそのままになっていることがあるので、デジタル化でLINEでも何かそういった活用ができて、悩み相談ができてアドバイスがもらえるというようなものができあがっていくと、気楽に相談できたり、アドバイスを受けていけるのではないかなと思う。なかなか一歩が踏み出せないの、その一歩踏み出す手前のところを、市がやっていただけると良いのかなというふうに思う。</p> |

| | |
|-----------|--|
| <p>委員</p> | <p>「すべての人にやさしく、安心を感じてもらえるデジタルスマートシティ」と言ったときに、デジタルのリテラシーのレベルがそれぞれの年代で変わってくると思うと、それぞれの年代に合わせた作り方があっていいのではないかと感じた。あと、今うちの子どもも、動画編集が得意で、とても見せ方が上手で、先日、テレビでも、ひきこもりだった子がT i k T o kが何かで配信を始めたら、自分に発信力があることが分かって、地元の企業さんに何かそういうところがないかといったところで、社会復帰したというような番組があった。若い子どもたちが、地域の資源などを調べて動画編集して発信すると、見せ方も多分すごく上手だと思う。動画は最初の1秒2秒が勝負と言われるので、若い世代の感覚にヒットするものが届かないと、磐田って良いなと思ってもらえるものがあったとしても、見せ方の問題がとても大きいと思う。見てもらいたい年代に届きやすい発信の仕方をして、例えば、自分の子どもたちがそれをやるとすると、子どもも地元で愛着を持って、また戻って来ようと思う気持ちにもなるだろうし、逆に親が巻き込まれて、絶対に一緒に見なければならなかったりして、そうやって輪が広がって行って、おじいちゃんおばあちゃんも見てみたりと、全体的に広がりやすいのではないと思う。</p> <p>あと、SNSとかで普段情報発信が上手な方がやっぱり何人かいらっちゃって、検索も上位になっている。それで見ていくと、困ったらこの人のSNSを見たら磐田のどこに行けば良いか分かるといったことが少しずつ分かるが、情報発信に凸凹があって、そういったところの魅力を発信してそこにまた人が来たり、生まれていく循環が生まれるのではないかと感じたので、発信の仕方をひと工夫、掛け算してもらえると相乗効果が生まれるのではないと思う。</p> |
| <p>委員</p> | <p>今の視点は大変大事だと思っていて、例えば、これから観光客が日本にたくさん来るが、磐田の観光はあまり出てこないが、必ずしも名所・旧跡に行くだけが、外国から来る、あるいは日本から来る人たちに注目されているわけではなくて、普段の状態、あるいは何げない状態だけその町の特色のあるもの、そういったものに魅力を感じて人が集まることにもつながってくると思うので、ぜひ今の視点を大切に市の施策に生かしていただければと思う。</p> |
| <p>委員</p> | <p>デジタルといふとこマイナンバーとか、少し硬いイメージもあるが、若者視点でいうと、インスタとかT i k T o kとかアプリ開発もある。80代の方でも、人生はそこからだといってアプリの開発をされたりしている。コロナ禍で感じたのは、保育園なら保育園の先生たちが、家にいる子どもたちに対して、T i k T o kで手遊びを発信したり、企業の社長さんが社員と一緒にT i k T o kで会社を宣伝して、地域が盛り上がったということがあると思う。やはり、アプリやT i k T o k、インスタというところを上手に使って、磐田を出すということが大事だと思っている。</p> <p>先ほどeスポーツの話もあったが、不登校やひきこもりの子たちもゲームがすごく好きで、その子たちが外に出て活躍できる場、ゲームから延長して、地域に発信していくということもあるので、小さいことも大事だが、大きなイベントを行って、少し「磐田」というのをコラボレーションすると良いと思う。今日、たまたま北海道の短期移住のニュースについてデジタルで発信があった。都心から北海道の保育所に短期移住し、夫婦で子供を保育園に2週間預けて、保育園のある小さな町のアクティビティーを体験して、そこの良さを夫婦で感じて子どもも感じて、また都心に帰るというようなことをやっていて、画期的な取組だと思う。保育所に短期移住をさせて、その経費も市で持ちながらまた返してまた戻ってくるっていう取組なんかでもデジタルの中でもやっていたりとか、本当にまたそこ</p> |

| | |
|----|---|
| | <p>の町に行くということもやっていたので、私は小さいところも大事だけれど、大きなイベント的な取組もスポーツのまちで打ち出していけたら、またちょっと違うのではないかと感じた。</p> |
| 委員 | <p>台風15号のとき、ビニールハウスなども冠水したりして、防災とデジタルがうまくつなげられないかなと感じた。人間がそこに行って何とかするというような形ではなくて、デジタルが防災のことで使えないか、あるいは水田の水管理などもデジタル化でうまくやれるものがないかと思った。</p> |
| 委員 | <p>昨日から今日、中国の気球がアメリカのほうへ飛んで行って、大分話題になっていたが、ドローンがものすごい勢いで開発されていて、例えば、天気の悪いときでも飛ぶことができるドローンが、そのうちできるのではないかと思う。そうすると、今起こっている災害の現場がどういう状況にあるのか瞬時に分かるようになる時代も来ると思うので、市が、アンテナを高くしていろいろな情報をキャッチして使えるものを使っていくというふうにつながっていけば良いと思う。</p> |

5 閉会 審議会 終了(20:30)